

特集

商店街を未来へつなぐ

9月12日(火)～14日(木) 甲佐高校生の2人が町
企画課(広報担当課)にインターンシップ(職場体験)に訪れ、
町広報紙「広報こうさ」の作成業務を体験しました。
慣れない業務で苦戦するも彼らが企画から取材、記事作
成を経て出来上がった特集をご覧ください。

高校生生活ではなかなか触れられない地域の声を聞くために

高校生活では、なかなか触れることができない地域の声。今回の特集では、彼らが地域のリアルな声を聞くため商店街に足を運び、未来の商店街のために頑張る人取材しました。

取材先は、創業70年を超え変わらず地域で愛される和菓子屋「池田製菓舗」と4年前に熊本市から甲佐町にUターンした下田さんが営む「melanger(メランジェ)」。

池田製菓舗では、昔の活気のあった商店街を知る、店主の池田美さんに商店街の昔と今の違いを語ってもらいました。

melanger(メランジェ)では、地元の食材を使った商品の製造や、甲佐蚤の市への出店など、商店街を盛り上げようと頑張る下田さん夫婦に未来の商店街について語ってもらいました。

次のページは、高校生が地域のリアルな声を聞き、写真撮影を行い、文書を考え作り上げたものです。若き広報担当者が作ったページをぜひご覧ください。



▲甲佐ブランド「こうさんもん」認定の池田製菓舗のマシュマロ



▲地元の食材を使った melanger (メランジェ) のコンフィチュール

広報紙作成の裏側をご紹介

甲佐町広報紙「広報こうさ」では「読んでみたい」「面白そう」と思ってもらえるよう、町民の皆さんに登場していただき、話題の情報を取り上げています。

今回は特集ができるまでをインターンシップで訪れた高校生と共に紹介します。

①企画・会議

担当者は今月どのような内容で特集を組むのか企画します。

会議では、今、皆さんにお知らせしなければならないことは何か、興味を持って見てもらえるものは何かを十分検討し、特集のテーマを決定します。



商店街のお店に突撃取材！



池田製菓舗
池田 実さん

池田製菓舗は昭和25年に甲佐町商店街で創業し、私で3代目となります。子どもの頃からこの商店街で育ちました。当時は振り返ると店の数や足を運ぶ住民も多く、活気のある商店街だったと思います。

町外や海外に出店してみないかとお誘いを受けたこともありましたが、衰退していく商店街を少しでも守っていききたいと思い、町に残ることを決めました。

3年前からは「NIPPONIA 甲佐 疎水の郷」と連携し、町外の宿泊者が当店に訪れることが多くなりました。また、ここ数年で商店街には個性豊かな雑貨屋や飲食店も増えつつあり、昔とは違う色のにぎわいができたと感じます。これからも、そういったお店と連携しながら商店街を盛り上げていきたいです。



melanger
下田 美加さん

4年前に熊本市から甲佐町に移住し、夫婦で商店街に店を構えました。元々、仕事の傍らコンフィチュールづくりや料理教室を開いており、自身の店を持ちたい想いは常々ありました。

夫が甲佐町出身ということもあり、度々商店街を訪れていたところ、知人から空き店舗になつていた建物を紹介してもらいました。広い厨房やほどよいスペースもあり一目ぼれ。店舗の改装には、空き家バンク制度を活用でき、地域の人たちが開店の準備を手伝ってくれましたのでとても助かりました。

私たちが移住してきた時から少しずつではありますが店が増えてきており、商店街を盛り上げようと頑張っている人たちがいます。私たち夫婦も商店街を未来へつなぐために地域の皆さんと協力していきたいです。

取材を通して気付いた商店街の魅力



甲佐高校2年
宮本 幸太郎さん

今回の取材を通して、地元を盛り上げようと頑張っている人たちの姿を目にしました。商店街には今回取材させていただいたお店以外にも若い人たちでも楽しめるお店がたくさんあります。次は私だけでなく、高校の友達や家族と一緒に商店街に足を運んでみたいと思います。



甲佐高校2年
島田 花蓮さん

私は元々甲佐町出身ですが、商店街の魅力に気付いていなかった部分がありました。お店の種類もさまざまで、今回、取材したお店の人も温かく接してくださり楽しかったです。この記事を通して、商店街に訪れる人が少しでも増えてくれたら嬉しいです。

② 取材・撮影

あらかじめ準備した質問に沿ってインタビューと写真撮影をします。自然な言葉や表情が出るような雰囲気作りを意識しています。



③ 編集

取材内容から伝えたい情報を分かりやすくまとめるほか、情報を視覚的・直感的に伝えるために使用する写真を選択していきます。

